



# 渚水だより

No. 7

2学期が始まり、3週間が経とうとしています。感染症拡大の恐れは未だに拭い去れませんが、子供たちは学校や地域の人々と関わりながら、日々成長しています。

## 仲間を共感していく温かい雰囲気の中で、互いの考えを確かにしていく子供たち

ある朝のことです。2年生の教室では、朝のスピーチから渚水タイムまで白熱した話合いが行われていました。どうやら2年生のブームとなっているフラフープの片付けについて仲間の中で意見が分かれているようです。

T：途中から片付けてもぐじゃぐじゃになる。時間の無駄だよ。  
最後の人が片付ければいいよ。

・C：そうそう。

M：でも、私はYさんたちのやさしい気持ちも良いと思う。だって別に片付けてあげたのに、そんな言われんでもいいと思うなあ。

・C：学校は時間で行動するところだよ。

・S：でも、片付けたらすっきりする。

F：後の人がすっきりするからさ～。

N：そうです、そうです。ぐじゃぐじゃだったらさー後の人さあー汚いと思うかもしれん。きれいにしておくと、後の人も片付けやすい。

2年生の子供たちは、フラフープの片付け時間や能率、そして違う立場からの見方を混ぜながら、今後の片付けの在り方を吟味しています。最初、途中でも片付けたらよいと考えるYさんがいました。それを聞き、能率的に片付けるためには最後の人が片付けたらよいという考えを持つTさんが話をしてきたのです。このことでYさんの片付け方の意味が問われてきたのでした。そこにYさんたちの気持ちに共感してい

くMさんやSさんが関わり、Yさんの途中で片づけをする意味を見出していったのでした。

このように互いの考えが確かとなり、深まっていく話合いとなるには、仲間を温かく受け止めようとする温かい雰囲気が大切であると改めて感じました。子供たちが日々温かい雰囲気の中で活動できるよう支えていきたいと考えています。

## I君のさりげないやさしさが釜ヶ淵に広がる

ある日、駅から電車に乗ろうとしていたお年寄りの方がいたそうです。足腰が弱っておられ、乗車に手間がかかっていました。するとさりげなく手を差し伸べた子供がいました。そのお子さんは黄色い帽子をかぶった身長の高い小学生だったそうです。

後日、そのお子さんは何と釜ヶ淵小学校のI君であることが分かりました。I君はそのことを自慢するでもなく、誰にも話していなかったそうです。先程の話を地域の方から聞いた教職員がお昼の放送で話したところ、釜ヶ淵小学校の子供、教職員は皆笑顔に包まれました。近くでその話を聞いていたI君の同級生に至っては思わず拍手をしていました。温かい風が校舎中に漂いました。I君のさりげないやさしい行動には、真心があります。その真心は相手に伝わるだけでなく、周りの人々の心を温かくしてくれました。

また、その話が明らかになったのは、I君の姿を本校の教職員に教えてくださった方がいたからです。その方のように、子供のちょっとした言動の中にあるよさをしっかり捉えることができるように自分の目をみがいていきたいと思えます。

私たちの知らないところで子供たちは成長しています。日常の子供たちの言動に気を配り、捉え、伝え、子供たちが成長している様を保護者、地域の皆さんと共に分かち合いたいと願うこの頃です。

高野 力郎